

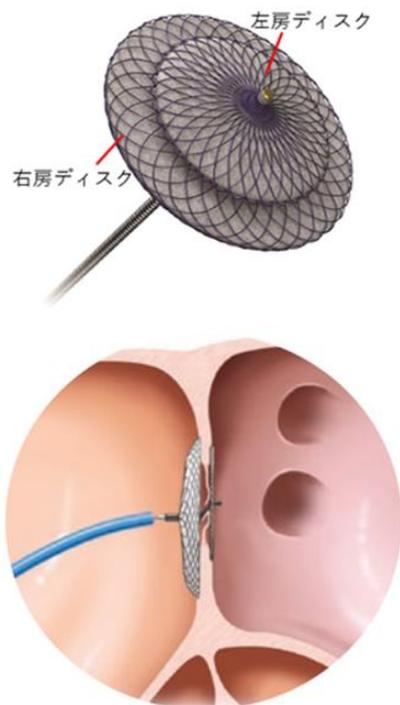
# HEART NEWS

2021年11月1日発行

Vol. 51

大阪市立総合医療センター循環器センター

<http://cardiovasc-ocgh.sakura.ne.jp>



8月から経皮的卵円孔開存閉鎖術を開始しました。脳梗塞の病態は多岐にわたりますが、その中で原因が特定困難な塞栓源不明脳塞栓症(潜因性脳梗塞)が近年注目されています。特に若年性(60歳以下)の塞栓源不明脳塞栓症患者では、卵円孔開存による『奇異性塞栓症』が多いと言われています。治療として、これまでは胸を開く手術や血栓を溶解する抗凝固薬を一生内服して予防する方法が行われてきました。近年の研究ではカテーテルによる治療である経皮的卵円孔閉鎖術が内服治療と比較して脳梗塞の再発をより予防できることが証明されました。

朝夕めっきり冷え込む時候となりましたが、皆さまお元気でお過ごしでしょうか？

重症コロナ感染症の第5波もようやく収束の兆しが見えてきました。

当院でも急性心筋梗塞症や不安定狭心症などの急性冠症候群、心不全、大動脈解離が徐々に増加しています。循環器センターではこのようなコロナ禍の中でも僧帽弁閉鎖不全症のカテーテル治療である経皮的僧帽弁接合不全修復術 (Mitra Clip) や奇異性脳塞栓症の治療として経皮的卵円孔開存閉鎖術などの新しい治療の導入を積極的に行っています。

今回は、循環器内科から石灰化病変を伴う冠動脈疾患のカテーテル治療と心臓血管外科から僧帽弁閉鎖不全症に対する最新治療について報告をさせていただきます。

今後も、コロナに負けない市総合を目指して、これまで同様地域医療機関との連携強化に努め、最先端の循環器医療を身近に提供できるよう、なお一層努力したいと思っておりますのでどうぞよろしく申し上げます。

循環器センターのHP (<http://cardiovasc-ocgh.sakura.ne.jp>) も是非閲覧ください

# 石灰化病変のアテレクトミー

## ～AI(人工知能)機能を搭載したOCTの併用～

循環器内科 仲川 将志

石灰化病変というのはカテーテル治療(PCI)のうえで難しい病変のひとつで、PCI後の再血行再建や心臓死なども、石灰化病変では、非石灰化病変に比べて有意に多いことが知られています。

ロータブレードという機器はダイヤモンド粒子でコーティングされた先端チップ(バー)を高速回転することで石灰化病変を削る治療法で、1990年代より使用されています。

一方、近年新たに登場した機器にダイヤモンドバックがあります(図1)。先端から6mmのところクラウンと呼ばれるダイヤモンドで構成された部分があり、軌道を回転させることで、遠心力の応用で石灰化病変を削ることができます。

ロータブレードよりも穿通性は劣りますが、ダイヤモンドバックでは、軌道回転によりクラウンの大きさよりも大きく削ることができ、また双方向の掘削が可能といったロータブレードにはない利点も多くあります。

また最近の話題として、今年夏に上市された、国内初のAI(人工知能)を搭載したOCT解析装置を当院でもいち早く導入して、日常診療に役立てています。

OCTは近赤外光線を用いた画像装置で、その高解像度から冠動脈の血管評価にも非常に意義が高いものの、一方でさまざまな経験や知識を必要とされてきました。今回のシステムでは、AIによる自動解析機能が搭載されていますので、われわれ循環器内科医だけでなく、コメディカルスタッフにも受け入れやすいシステムになっています。

血管の石灰化を自動的に検出し、その角度や厚さを定量的評価することが可能(図2)となりますので、アテレクトミーの要否の判断などに役立つものと考えております。

当院ではこの数年来、アテレクトミーデバイスを使用したPCIの頻度が従来よりもさらに増加しています(図3)。アテレクトミーをより安全に施行し、PCI後も長期的にも良好な経過がえられるように、今後も努めてまいります。

図1



図2

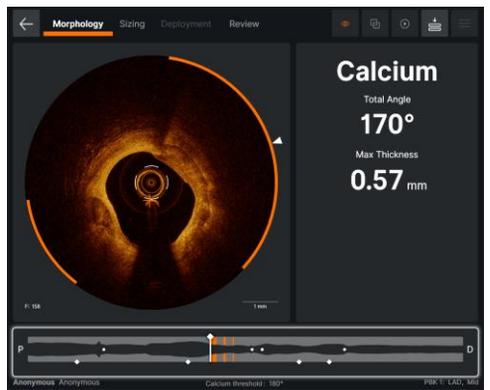


図3



注：2021年については9月までの件数

## 循環器内科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	阿部	松村	占野	仲川	成子
			田村(ペースメーカー)		
午後	阿部	松村			成子
	占野(ペースメーカー)				林

### 地域初診外来

	月	火	水	木	金
午前	成子	齋藤	阿部	成子	松本
					林(不整脈)
午後		齋藤(末梢動脈)	占野(不整脈)	仲川(肥大型心筋症)	松本(TAVI)

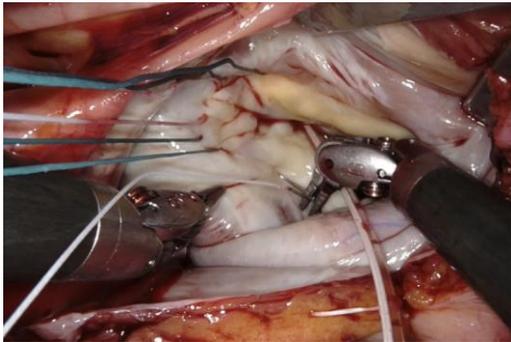
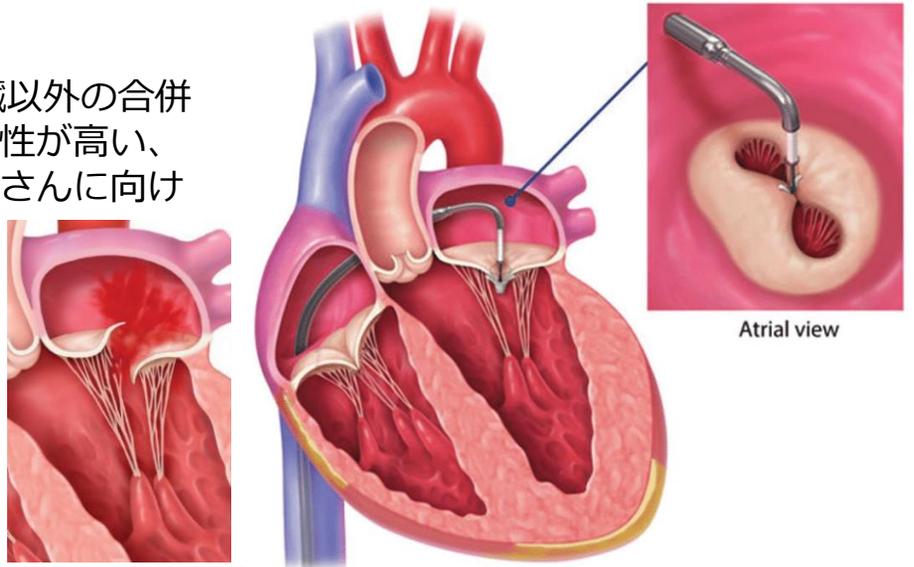
# 僧帽弁閉鎖不全症に対する最新治療

僧帽弁閉鎖不全症（MR）に対して行ってます最新治療のご紹介です。従来から行われている右小開胸からの胸腔鏡下僧帽弁手術（Minimally Invasive Cardiac Surgery: **MICS**）はさらに進化し、**ダヴィンチ**を用いた**ロボット支援下手術**となりました。

さらに本年から、大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療TAVIに加えて、僧帽弁閉鎖不全症に足るカテーテル治療、**MitraClip**を行っております。従来は手術不可能とされた、ご高齢、虚弱、心機能の著しい低下を来した患者さんにも治療を提供できるようになりました。

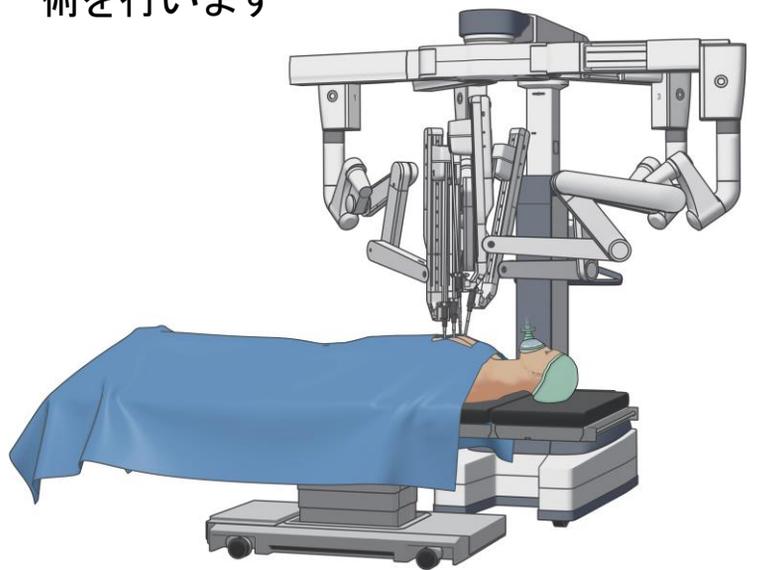
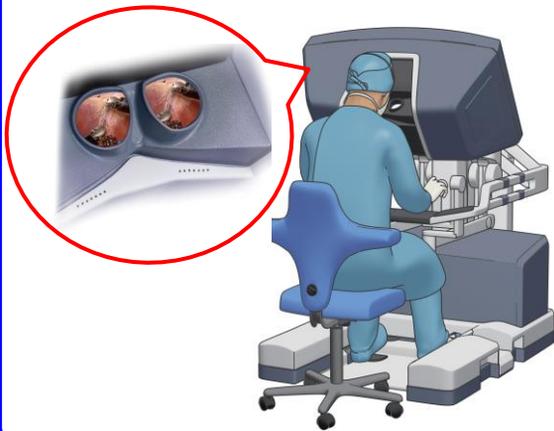
## MitraClip

MitraClipは高齢者や心臓以外の合併症のため外科手術の危険性が高い、または向いていない患者さんに向けた新しい治療法です。



## 低侵襲ロボット支援手術

小さな穴からカメラ、器具を挿入して手術を行います



## 心臓血管外科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	青山	村上	阪口	【下肢静脈瘤外来】 青山	尾藤
午後	青山	【ロボット手術外来】 村上	阪口		尾藤

# 今号の循環器日記

我々循環器センターでは、臨床・教育・研究のいずれもが欠けることのないよう力を入れております。国内学会をはじめ国際学会でも発表を行ったり、教育プログラムの運営を行ったりしています。しかし、コロナ禍によって多くの学会や研究会が中止や延期を余儀なくされ、教え教えられ議論することによって医療を高めあう機会が突然なくなってしまいました。そのような状況の中で、学会や研究会がそれぞれ工夫した方法で徐々に開催されるようになってきました。我々が年次開催している『心臓病懇話会』においても、昨年は事前収録をしてWEB配信させていただきました。さらに今年はコロナ禍が沈静化してきたタイミングでの開催となり、やっと対面で開催させていただくことができました。右記のとおり、10月23日に当院さくらホールで行いました。ご参加いただきました先生方には心から感謝申し上げます。まだ小規模の対面開催に留まりましたが、直接お会いしたうえで情報交換することができ、本当に嬉しく思っております。コロナ禍の終息を願っておりますが、完全に終息するまでの間も工夫をして先生方との交流を続けたいと考えております。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

大阪市立総合医療センター  
**第23回 心臓病懇話会**  
「不整脈診療 2021」

**日時** 令和 3年 10月 23日 (土)  
15時 ~ 17時

**場所** 大阪市立総合医療センター さくらホール  
対象: 医療従事者 (申込要)

**開催あいさつ** 循環器センター長兼循環器内科部長: 成子 陸彦

**総論講演** 低侵襲な弁膜症治療  
心臓血管外科: 村上 貴志  
「新しい僧帽弁閉鎖不全の治療法 Mitra Clip」  
循環器内科: 齋藤 聡男

**不整脈診療 2021**

**座長** 循環器内科: 松村 嘉起  
心臓血管外科: 青山 孝信

「最新の心房細動治療 ~高齢化社会のアンメットニーズを満たす~」  
循環器内科: 林 雄介

「ペースメーカ治療の最前線」  
循環器内科: 占野 賢司

**閉会あいさつ** 心臓血管外科部長: 村上 貴志

写真は心臓病懇話会での (左上) 齋藤医師, (中上) 林医師, (右上) 占野医師, (左下) 村上医師, (右下) 会場の様子。



当院循環器内科、心臓血管外科は近隣の先生方からの循環器救急疾患をさらに迅速に受けられるようにするため、循環器センター直通電話（ハートライン）を設置しております。

ハートライン（循環器センター直通電話）

06-7662-7979

その他の場合は、御面倒ですが、

06-6929-1221（病院代表）から呼び出して下さい。